

**豆知識**  
レンゲソウの正しい名前前は、「ゲンゲ」です。  
レンゲとは、ハスの花のことで、その花の形に似ていることから、レンゲソウと呼ばれています。  
また、中華料理で使うときには、ちったハスの花びらの一まことして「ちりれんげ」と呼ばれています。

あれは「ちりれんげ」。  
これは同じレンゲでも、レンゲソウという植物だ

「レンゲ」ってチャーハンとかラーメンを食べる時に使うスプーンみたいなものだよな

レンゲ……  
ふうふうふう

そんなことより、これ、何の花？

やっど、追いついた。わしより先に見・おっ・て

ゼーゼー

ピンクのじゅうたんだけだわさ

つひょうつひょう

こりゃ、すごい

では、説明しよう。レンゲソウは田んぼの「ひりょう」なんだ

はあ〜？

期待どおりにはいかないだわさ

ゼーゼー

おっ、さすがわしのまじ。2人とも、もう、わかったらどう？

レンゲソウは土の中にまぜこまれるってことか

わからん

ヒント2  
レンゲソウはぬかずに、そのまま土をたがやす

田んぼにするんじゃ、レンゲソウはぬかないといけないだわさ

わからん

ヒント1  
ここはこれから田んぼになる

近くで見るとそこらへんのざっ草みたいだわさ

ところが、レンゲソウには大切な役わりがある

そのわりには、レンゲソウってあんまり見ないだわさ

そりゃ、たぶん

その上、レンゲソウが生えていると、ほかのざっ草が生えにくいらしいから、ついかもある

だから、レンゲソウを土の中にまぜこみながらたがせば、ひりょうがまかれた土でイネを育てることになるんだ

なんですとおおおこの空気の中にあるものがひりょうにいー！

マジックだわさ

ちっそ  
ちっそ  
ひりょう

なんとこの「こんりゅうきん」は植物のひりょうになる「ちっそ」を空気中からとりこんで、植物が使える形にかえて、あたえるんだ

レンゲソウは根っこがぶが、あり、その中には、「こんりゅうきん」という「さいきん（小さい生き物）」がすんでいる。

エゴちゃんのつぶやき  
レンゲソウより  
はちみつだあ〜

こらあ、人の畑のものはとってはいかんぞ

みつ……ねえ。どれ、ちよっと味見をするか

それでもレンゲソウは、化学ひりょうよりはかんなきようによく、みつをもとめてミツバチがやってくるし、見た目もきれいで人を引きつけるというところ、見直されてもいいぞ

また、さいきんでは、レンゲソウが十分にせい長する前にイネを育て始めるところもあるから、レンゲソウは使えないというじじょうもある

そうかあ

昔にくらべたらへった。レンゲソウはたねを買ってそれを育てる手間がある。ところが、化学ひりょうや農薬はまくだけでよく、こうかもはつきりしている

まあ、楽な方がいいよな

**おうちのカタへ**  
レンゲソウと同様、緑肥にできるマメ科の植物にヘアリーベッチがあります。ヘアリーベッチは窒素含有量が高く、耐寒性にもすぐれ虫害を受けにくいという長所があります。試験的に導入された地域では成績がよいとのこと。ただし、湿害に弱いので、水はけの悪い田んぼの水をしっかりとめくことが大切になります。レンゲソウの高騰もあり、今後は房になった紫色の花を田んぼで見かけることが増えるかもしれません。